

## 平和について考えたこと

豊見城市立伊良波小学校六年 上間 広人

三年前の慰霊の日

苦しかっただろう

初めて平和の礎に行った

家族にあいたかっただろう

僕のひいおじいちゃんは沖繩戦で亡くなったそうだ

ひいおじいちゃんの気持ちや戦没した人達の気持ちは今なら少しわかる気がする

僕はひいおじいちゃんのこととは見たことはないけど その日初めて礎に彫られている名前を見つけた

今年も慰霊の日が来る  
あの頃よりも

戦争で亡くなったと母に聞かされても 当時の僕は正直あまり深く考えることができなかった

僕は心からおじいちゃんへ祈ることができ  
きるだろう

テレビのニュースでロシアとウクライナの戦争が始まったと流れていた

沢山の人が泣いていた

今もこうして戦争という恐怖と隣りあわせで生きている人達がいるんだと知った  
僕はふと思った

毎日あたりまえのようにすごしている  
日々は当たりまえじゃないと知った

今このしゅん間も苦しんでいる人がいる  
僕の当たり前前ってなんだろう

毎日ごはん食べて学校に行って  
友達と遊んでお風呂に入って

安心した家の中でねる

そんな当たり前前のこと  
が当りまえじゃないと痛感した

あの時戦争の中にいたひいおじいちゃん  
は怖かっただろう